

都市再生整備計画事業 事後評価シート(原案)

中山道赤坂宿周辺地区

平成29年11月

岐阜県大垣市

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1)数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2)文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

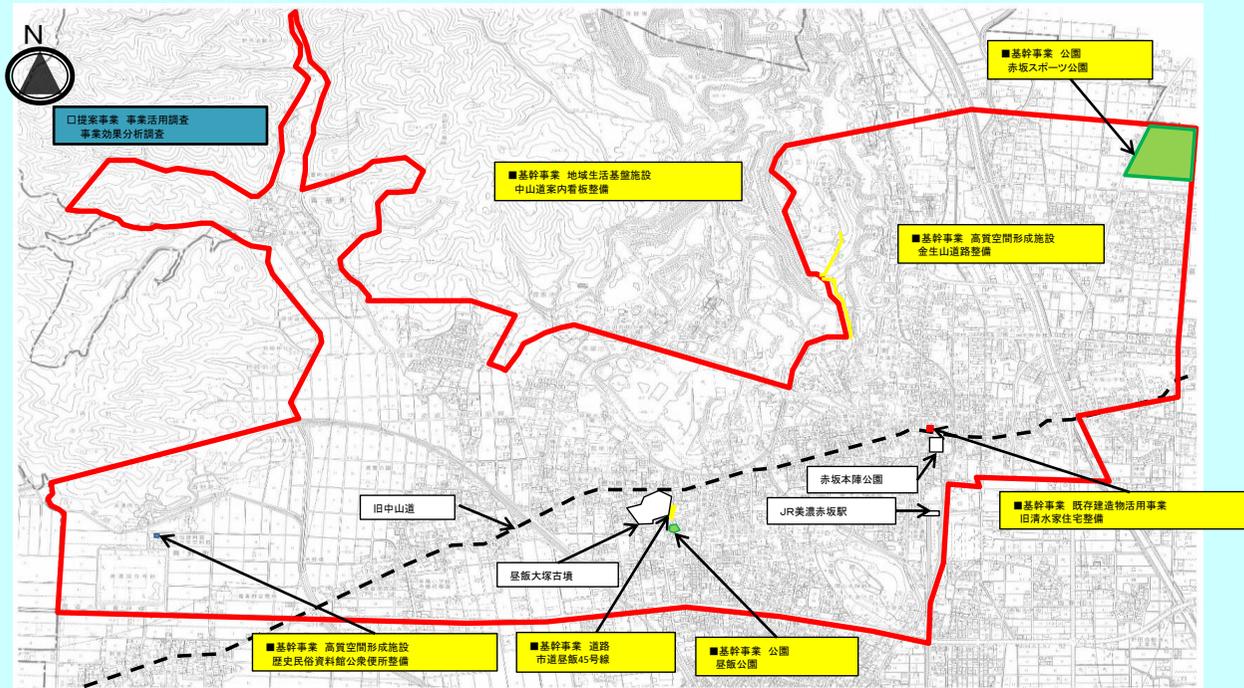
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	大垣市		地区名	中山道赤坂宿周辺地区			面積	556ha		
交付期間	平成26年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	177百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道屋飯45号線)、公園(屋飯公園、赤坂スポーツ公園)、地域生活基盤施設(文化財看板設置事業、中山道案内看板整備)、高質空間形成施設(歴史民俗資料館公衆便所整備、金生山道路整備、化石館周辺環境整備)、既存建造物活用事業(旧清水家住宅整備)										
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(文化財看板設置事業)、高質空間形成施設(化石館周辺環境整備)	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	-	2事業とも、地権者等との協議が整わなかったため。				指標への影響が懸念されるが、指標への影響を推計する根拠データが不足しているため、目標値は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-				-					
		提案事業	-	-				-					
	交付期間の変更	当初	平成26年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	平成26年度～平成29年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	交流センターの利用客数	人/年度	0	H25	1,000	H29	-	4,219	○	あり	景観や利用環境に配慮した、歴史的建造物である旧清水家住宅の計画的な施設整備により、当初想定より多くの利用客の確保につながった。	-
										なし			
指標2	中山道赤坂宿周辺来訪者数	人/年	97,575	H25	100,000	H29	-	102,139	○	あり	地区内の公園や施設、景観に配慮した道路の整備により、地区内のイベント等他事業と相まって、来訪者の誘客が図られ、来訪者数の増加につながった。	-	
										なし			
指標3	中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度	%	59	H25	71	H29	-	76	○	あり	豊かな自然や歴史・文化を生かした道路や施設の整備により、地区内の魅力が高まり、来訪者や周辺住民の満足度の向上につながった。	-	
										なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
4)定性的な効果発現状況	旧清水家住宅にて、地区のまちづくり団体による地域づくりのための勉強会が開かれるなど、郷土愛の醸成が図られている。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	住民参加プロセス	市民参画によるワークショップ等の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、市民意向を確認しながら、計画的なまちづくりを推進していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくりに対する市民アンケートの実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、アンケート等の手法により、市民の意見を聴取し、市民ニーズに対応した事業展開を図る。					

様式2-2 地区の概要

中山道赤坂宿周辺地区(岐阜県大垣市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 自然や歴史、文化などを生かした宿場町周辺の憩いと賑わいの創出 目標1: 歴史的資源等を活用した交流と憩いの場づくり 目標2: 特色ある地域歴史景観の創出による観光客の誘導促進	交流センターの利用客数	単位: 人/年度	0	H25	1,000	H29	4,219	H29
	中山道赤坂宿周辺来訪者数	単位: 人/年	97,575	H25	100,000	H29	102,139	H29
	中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度	単位: %	59	H25	71	H29	76	H29



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 旧清水家住宅や公園の整備により、地域住民や来訪者の交流の場が創出された。 景観に配慮した道路や施設の整備により、地区内の統一性のある空間が形成され、回遊性が向上した。 来訪者の増加を図るため、地区の魅力を発信し、認知度のさらなる向上を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域コミュニティの活性化 ・地区内の文化施設や公園の利用促進を通じ、地域コミュニティのさらなる活性化につなげるとともに、郷土愛の醸成を図る。 ○観光客の誘客促進 ・豊かな自然や歴史的・文化的遺産が多く点在する地域資源を生かしたまちづくりを引き続き推進し、観光地としての魅力を向上させるとともに、地区のPR活動を展開し、来訪者のさらなる増加を図る。

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他(目標年度)	●		平成28年度	平成29年度	計画期間の延長に伴い、目標年度を変更したものを。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道屋飯45号線	4	L=70m	6	L=81m	事業実施時期の変更(H26→H27) 事業規模の増 事業費の増	影響なし	●	
公園	屋飯公園	8	A=1,089㎡	8	A=1,089㎡	事業内容の一部変更	影響なし	●	
公園	赤坂スポーツ公園	50	A=44,000㎡	50	A=44,000㎡	事業実施時期の変更(H26～28→ H26～29) 事業内容の一部変更	影響なし		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設(情報板)	文化財看板設置事業	6	20基	—	—	事業の削除 地権者等との協議が整わなかったため。	影響なし	—	—
地域生活基盤施設(情報板)	中山道案内看板整備	2	10基	3	10基	事業実施時期の変更(H27～28→ H29) 事業費の増	影響なし		●
高質空間形成施設(バリアフリー対応公衆トイレ)	歴史民俗資料館公衆便所整備	17	男小2・洋1、女洋3、多目的1	20	男小2・洋1、女洋3、多目的1	事業費の増	影響なし	●	
高質空間形成施設(カラー舗装等)	金生山道路整備	18	L=800m	11	L=761m	事業実施時期の変更(H26～28→ H26～27) 事業規模の減 事業費の減	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	化石館周辺環境整備	9	A=3,000㎡	—	—	事業の削除 地権者等との協議が整わなかったため。	影響なし	—	—
高次都市施設									
既存建造物活用事業(観光交流センター)	旧清水家住宅整備	89	A=452.5㎡	77	A=452.5㎡	事業実施時期の変更(H26～28→ H26～29) 事業費の減	影響なし		●
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	事業効果分析調査	4	事業効果分析調査	2	事業効果分析調査	事業実施時期の変更(H28→H29) 事業費の減額	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
	-	-	-	-	-	-	-	-

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み	値	モニタリング	事後評価	あり
指標1	交流センターの利用客数	人/年度 旧清水家住宅の利用者数(平成29年度)の計測結果を評価値とする。	-	-	0	H25	1,000	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 見込み	●	4,219	事後評価	○	
指標2	中山道赤坂宿周辺来訪者数	人/年 H29年度における岐阜県観光入込客統計調査の結果及び地区内の観光施設の年間利用者数の計測結果を評価値とする。	-	-	97,575	H25	100,000	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 見込み	●	102,139	事後評価	○	
指標3	中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度	% 中山道赤坂宿周辺地区の来訪者に対し、アンケート調査(H29.10~11)を実施し、調査結果を評価値とする。	-	-	59	H25	71	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 見込み	●	76	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	交流センターの利用客数は目標値を上回っているため、目標達成度は「○」とした。	-
指標2	中山道赤坂宿周辺来訪者数は目標値を上回っているため、目標達成度は「○」とした。	-
指標3	中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度は目標値を上回っているため、目標達成度は「○」とした。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価				
その他の 数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定 見込み	- -		
その他の 数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定 見込み	- -		
その他の 数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定 見込み	- -		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

旧清水家住宅にて、地区のまちづくり団体による地域づくりのための勉強会が開かれるなど、郷土愛の醸成が図られている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市民参画によるワークショップ等の開催	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	本計画の策定にあたり、市民を対象としたまちづくり関連の講演会及びワークショップを実施(H26.2)し、当該地区におけるまちづくりの課題等を整理するなど、市民意向を確認した上で計画を策定した。	引き続き、市民意向を確認し、計画的なまちづくりを推進していく。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくりに対する市民アンケートの実施	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	地区内の来訪者やイベントの参加者にアンケート調査を実施し、計画に対する評価や今後のまちづくりへの要望を調査した。	実施主体:市	引き続き、アンケート等の手法により、市民の意見を聴取し、市民ニーズに対応した事業展開を図る。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内検討会議(中山道赤坂宿周辺地区)	企画部(地域創生戦略課)、経済部(商工観光課)、建設部(道路課)、都市計画部(都市計画課、都市施設課)、教育委員会事務局(文化振興課)	平成29年10月30日(月) 平成29年11月6日(月)~10日(金)	企画部地域創生戦略課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3			
指標名		交流センターの利用客数		中山道赤坂宿周辺来訪者数		中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道昼飯45号線	—	景観や利用環境に配慮した、歴史的建造物である旧清水家住宅の計画的な施設整備により、当初想定より多くの利用客の確保につながった。	◎	地区内の公園や施設、景観に配慮した道路の整備により、地区内のイベント等他事業と相まって、来訪者の誘客が図られ、来訪者数の増加につながった。	◎	豊かな自然や歴史・文化を生かした道路や施設の整備により、地区内の魅力が高まり、来訪者や周辺住民の満足度の向上につながった。		
	昼飯公園	—		◎					
	赤坂スポーツ公園	—		◎					
	中山道案内看板整備	—		◎					
	歴史民俗資料館公衆便所整備	—		◎					
	金生山道路整備	—		◎					
	旧清水家住宅整備	◎		◎					
提案事業	事業効果分析調査	—	※中山道案内看板整備は、指標計測時において未完成であり、評価できないため「空欄」とした。	—	※中山道案内看板整備は、指標計測時において未完成であり、評価できないため「空欄」とした。	—	※中山道案内看板整備は、指標計測時において未完成であり、評価できないため「空欄」とした。		
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	施設の適正な維持管理や魅力を高める施策の展開に努め、利用客数の増加を図る。	効果的なPR活動を通じ、認知度の向上に努めるとともに、イベント事業等の施策展開により、来訪者数のさらなる増加を図る。	引き続き、来訪者や地区住民のニーズに合った施策の展開を図り、さらなる魅力の向上に努める。
-------	---------------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明らかである。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内検討会議(中山道赤坂宿周辺地区)	企画部(地域創生戦略課)、経済部(商工観光課)、建設部(道路課)、都市計画部(都市計画課、都市施設課)、教育委員会事務局(文化振興課)	平成29年10月30日(月) 平成29年11月6日(月)~10日(金)	企画部地域創生戦略課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
歴史的資源・景観を生かした まちづくり	旧清水家住宅や公園の整備により、地域住民や来訪者の交流の場が創出された。	—	—
回遊性の向上	景観に配慮した道路や施設の整備により、地区内の統一性のある空間が形成され、回遊性が向上した。	地区の認知度のさらなる向上	
		—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域コミュニティの活性化	地区内の文化施設や公園の利用促進を通じ、地域コミュニティのさらなる活性化につなげるとともに、郷土愛の醸成を図る。	・歴史的・文化的遺産の保全・活用 ・身近な公園の整備
	観光客の誘客促進	豊かな自然や歴史的・文化的遺産が多く点在する地域資源を生かしたまちづくりを引き続き推進し、観光地としての魅力を向上させるとともに、地区のPR活動を展開し、来訪者のさらなる増加を図る。	・歴史的・文化的遺産の保全・活用 ・クールおおがきの推進

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	観光客の誘客促進	豊かな自然や歴史的・文化的遺産が多く点在する地域資源を生かしたまちづくりを引き続き推進し、観光地としての魅力を向上させるとともに、地区のPR活動を展開し、来訪者のさらなる増加を図る。	・歴史的・文化的遺産の保全・活用 ・クールおおがきの推進
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	交流センターの利用客数	人/年度	0	H25	1,000	H29	確定	4,219	○	あり	-	-	-
							見込み ●						
指標2	中山道赤坂宿周辺来訪者数	人/年	97,575	H25	100,000	H29	確定	102,139	○	あり	-	-	-
							見込み ●						
指標3	中山道赤坂宿周辺地区来訪者満足度	%	59	H25	71	H29	確定	76	○	あり	-	-	-
							見込み ●						
その他の数値指標1	-	-	-	-	/	/	確定 -	-	/	/	-	-	-
							見込み -	-	/	/	-	-	-

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	地域資源を生かした計画的なまちづくりの展開により、来訪者の減少抑制や満足度の向上を実現できた。	地域資源を有効活用し、独自性のあるまちづくりを推進していく。
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	課題等の分析に基づく計画の策定及び事業展開により、全ての指標が目標を達成し、効果的な事業の実施が実現できた。	十分な課題分析のもと、数値目標を意識した効果的な事業展開を図る。
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民等の意向を把握した上で事業展開したことにより、満足度調査において高い数値を得られた。	事業立案時における市民意向を確認しながら、計画的なまちづくりを推進していく。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	平成29年11月13日～26日	平成29年11月13日～26日	担当部署への郵送、Eメール、ホームページからの意見投稿等	企画部地域創生戦略課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、事後評価原案を公表する旨を掲載	「広報おおがき」 平成29年11月1日号	平成29年11月13日～26日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市役所内での閲覧	平成29年11月13日～26日	平成29年11月13日～26日		

住民の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的にまちづくりが行われていることがよくわかりました。 ・歴史が息吹く良いところなので、知名度をもっとあげてほしい。
-------	---

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岐阜大学地域科学部教授 西村 貢氏 名城大学都市情報学部教授 大野 栄治氏	平成29年11月29日(水)	企画部地域創生戦略課	大垣市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	市独自で設置
その他の委員	(公社)日本技術士会中部本部岐阜県支部元幹事 高崎 豊氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--